

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

| | |
|---------------------------|---|
| 事業課題名 | 国立台湾大学管理大学院とのダブルディグリー制度における受入プログラム |
| 代表者名 | 原 良憲（担当・経営管理大学院掛 豊野 由紀子） |
| 事業概要 (600 字程度) | <p>国立台湾大学管理大学院とのダブルディグリー制度交流協定に基づき、1 年半、国立台湾大学管理大学院で履修した後、1 年間、京都大学経営管理大学院で学び、その後、半年間、国立台湾大学管理大学院で履修し、合計 3 年間をかけて、国立台湾大学管理大学院と京都大学経営管理大学院における双方の修了要件を満たした場合、以下の学位が授与される。</p> <p>(1) 京都大学：経営学修士（専門職）</p> <p>(2) 国立台湾大学：MBA (Master of Business Administration)</p> <p>ダブルディグリー生の選抜は、管理大学院の会計プログラム又はグローバル MBA プログラムで 1 年間履修した学生を対象とする。ダブルディグリー生の個別の目標に対応し、体系的な履修指導体制を築くため、指導教員を設定し、ワークショップ指導にあたる。教育部を修了するには、教育部 2 年コース（ビジネス・リーダーシップ、プロジェクトオペレーションズ・マネジメント、サービス価値創造、ファイナンス・会計の各プログラム、ただし長期履修学生を除く）及び国際プロジェクトマネジメントコース（以下国際コースという）の中から 1 つを選択し、本制度において教育部を修了するためには、1 年以上在籍し 42 単位以上を修得しなければならない。</p> |
| 成果の概要 (800 字程度) | <p>平成 28 年度は国立台湾大学管理大学院・会計プログラムより、2 名がダブルディグリー生に選抜された。</p> <p>そのうち 1 名は会計・ファイナンスプログラムを選考し、もう 1 名は国際コースを選考し、基礎科目、専門科目、実務科目、発展科目（ワークショップ）を履修し、国立台湾大学からの単位互換を含み、42 単位以上を修得した。また、それぞれの指導教員の元で 1 年間かけて、ワークショップとして独自の研究・調査を行い、2 回の成果発表会を経て、両名とも大変優秀な成績を収めた。</p> <p>国立台湾大学管理大学院とのダブルディグリー制度交流協定に基づき、2 名ともは京都大学にて経営学修士（MBA）の学位を取得した。</p> <p>国立台湾大学管理大学院に戻った後は、修了までの残り半年間で論文を書き上げ、国立台湾大学にて MBA (Master of Business Administration) の学位を取得する予定である。</p> <p>ダブルディグリー生において、京都大学の学生達と共に学ぶことによって、グローバルな視野を広げ、台湾のみならず国際的分野で活躍する人材に育つことが期待される。</p> <p>また双方の大学で学ぶことによって、さらに専門性や知識を高められ、将来、台湾と日本の企業や政府機関、国際機関等での架け橋を担う国際的な人材として活躍することが期待される。</p> <p>また国立台湾大学管理大学院と京都大学経営管理大学院間におけるダブルディグリー制度において、益々双方の部局間交流が期待される。</p> |